

令和元年6月7日現在

機関番号：16401

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2016～2018

課題番号：16K13137

研究課題名（和文）パラオの親族集団に見られる教育・職業機会を求める女性の相互支援の役割と機能の解明

研究課題名（英文）Elucidation of the role and mechanism of mutual support for women seeking educational and vocational opportunities found in maternal kin groups in Palau

研究代表者

廣瀬 淳一（Hirose, Junichi）

高知大学・教育研究部総合科学系地域協働教育学部門・准教授

研究者番号：20748579

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は教育・職業機会を模索するパラオ女性の協力的態度について考察した。パラオでは母系の伝統的価値と協力態度の関係も、教育・職業での選好が個人的であるか集団的であるかについても知られていない。

筆者は聞き取り調査の他、幸福度と協力態度に関する質問紙調査及び向社会的性を測るゲームを実施した。結果からは、女性の教育・職業機会に関する協力的行動と伝統的価値に強い関係が見られた。次に、これらを重視しない教育エリートは学歴や収入の高さにもかかわらず幸福度が低い傾向が見られた。

教育は大切であるが、伝統価値や協力を犠牲にする学歴重視の教育政策は小島嶼の幸福と内発的発展にとってはネガティブな要素となりうる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

パラオはアメリカの制度を模した教育を実施しているが、その裏側では母系社会の伝統的価値やそれに基づく協力的行動がサブシステムとしてある。グローバル化社会では開発途上国の発展は「経済的」な側面が重視され過ぎる時がある。しかし、それぞれの土地の自然・社会環境と調和した暮らしと幸福度の関係が明らかになれば、今後はより一層生活者の心理的側面を配慮した開発の必要性が増す。

本研究では、幸福度を取り入れながら、人々の伝統への認識と協力的行動を心理的に捉えるべくアプローチした。その経験から、将来的にはジェンダー等にかかる認識と開発についてさらに実験社会科学など実証研究への広がりを示すことができた。

研究成果の概要（英文）： This survey approaches to the female's cooperation in seeking educational and vocational chance in Palau. Little is known about how Palauan people recognize that a personal or a group success as well as the linkage between the traditional value and cooperative attitudes.

The Author has face to face interview and analyze happiness and the relation to cooperative attitudes toward educational and occupational chance by conducting questionnaire surveys and a game with Palauan subjects. First, the analysis finds an importance of traditional knowledge to explain female's cooperative attitudes and their high generativity. Second, people are identified to be a low level of happiness in case they have high educational record, high income but a low level of consciousness for traditional values.

Overall, the results suggest that the enhancing cooperative attitudes through proper traditional education shall be key to induce people to be both personal and community success in this small Island.

研究分野：ジェンダー

キーワード：女性 母系集団 相互協力 向社会的 次世代意識 学歴エリート 帰属意識 パラオ

## 様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19（共通）

### 1. 研究開始当初の背景

(1) パラオは西太平洋カロリン諸島の西端にある人口2万人弱の小島嶼国である。パラオは太平洋戦争以前には日本による統治下に置かれたが、アメリカの戦略的信託統治の時代を経て1994年に独立し、その行政、教育等の諸制度をアメリカに倣った。パラオは開発途上国に分類されるが、その教育は比較的恵まれた状態であり、人口規模の小ささ、アメリカの存在感の大きさ等の理由から、開発研究における教育セクターの優先度は他の開発途上国に比べて必ずしも高くはない。

(2) パラオは外国の近代的制度を取り入れつつ、運用はパラオの風土に適応させるように調和を図ってきた。その模索の経験にパラオの内発的発展の種が見いだせる（廣瀬 2014）。申請者は、パラオの教育を近代制度とパラオの生活様式の調和のとり方に関して、内発的発展の観点から、パラオの母系集団における女性グループの協力的態度に注目した。

(3) これまで、パラオの教育に関する既存のデータは、文化人類学や国際関係論の研究から知ることが多かった。例えば、宗教、母系社会の構造、政治空間、出産儀礼、内発的安全・平和等の領域で触れられた。これらの研究は、パラオにおける次世代育成の考え方や教育制度の発展の過程を知るうえで有益であったが、パラオの教育に関する研究としては、当然ながら、あまりに断片的と言える。

(4) 申請者は、母系社会の社会文化的特徴やジェンダーの視点を踏まえつつ、今日のパラオが抱える教育課題の解決に必要なスコープを提供できると考えた。申請者はこの小島嶼国が、アメリカという大国の周縁国として振舞ってきた軌跡は、パラオ以外の離島や中山間地域での教育課題の解決にも寄与すると信じている。

### 2. 研究の目的

(1) 本研究では、母系集団における女性親族の協力活動と教育・就業機会の関係性について調査する。パラオにおける親族集団の女性による協力行動と教育への影響を解明した研究は殆どない。申請者はパラオの親族集団内の女性グループに、伝統的な知識と教育と職業機会を得るための協力行動に関する聞き取り調査を実施し、その知識の獲得の時期や方法、どのような協力行動をするかについて分析する。申請者による先行研究では、母系集団で期待される女性の伝統的役割との関係性が認められ、女性の相互支援が教育を通じて所属集団の地位を向上させることが、女性の奨学金の獲得数が男性を顕著に上回る理由となっていることが次の仮説として浮上した。

(2) 本研究は、母系社会における女性グループの仕組と今日のパラオの教育を理解することで、今日のパラオが抱える教育の課題を具体的に解決するための新しいスコープと知見を提供する。本研究によって、パラオの教育課題を解決する新しいアプローチを提供できるだけでなく、将来的に伝統的慣習が強く残るその他の開発途上国の教育援助計画にも応用が期待できると信じている。

### 3. 研究の方法

(1) パラオ政府や教育関係者からパラオの教育や進学・就職に関する情報を収集するとともに、制度の有無や利用状況などにつき補足的な聞き取りを実施する（15名）。これらの基礎調査をもとにグループを絞り込み（5グループ）、聞き取り対象者の選定や聞き取り内容を決める。

パラオでは特定の親族集団の成員が仕事に就きやすい職業領域（例えば、学校関係）や奨学金制度がある。調査対象の決定にあたっては、外国人である申請者は、個別の親族組織、地域、親族組織間の関係性について判断ができないため、現地の信頼できる協力者の助言を得て実施する。

(2) パラオでは兄弟姉妹が費用を供出し、親族集団の成員が行っていた家事・育児・介護支援に外国人ヘルパーを雇用する家庭が増えている。このことは、伝統的に女性が親族集団に対して行ってきた貢献の種類や方法が変化していることを予想させる。また、同時に親族集団の男性の役割も変化していることが予想されるので、この点についても注意する。

(3) 親族集団は秘密主義的であり、本音をヒアリングで聞き出すことは難しい。そこで、追加的に、予備アンケート調査（対象30人）、本アンケート調査（対象200人）を実施する。アンケートには社会人口学的情報のほか、主観的幸福度の尺度、伝統的価値、次世代意識（Generativity）、社会的価値性向（SVO: Social Value Orientation）、好奇心等の尺度を用いる。本アンケートで実施するSVOゲームではポイントを換算して実際に現金を支払う。得られたデータを統計ソフトSTATAで分析し、伝統的価値観を重視する認識、協力行動、学歴エリート、次世代意識を主観的幸福度との関係で統計的に分析する。

#### 4. 研究成果

(1) ヒアリングによれば、伝統的な母系社会では女性が親族集団で果たす役割が大きく、女性の教育・職業領域での活躍は家族、親族集団に対する直接的・間接的貢献でもある為、女性は良い仕事に就くために、進学や就職の情報はもとより、金銭的な援助や家族・親族のケア等の労働によるケアワークを相互協力することが慣習化したと考えられる。結果として、この協力関係が女性の大学進学の奨学金獲得者数を増やし、収入の良い職業ポストへの就職を促したと考えられる。

(2) パラオの人口構造（2005年）から、高校を卒業する年齢から定年退職を迎える年齢までの間で、女性のパラオ国内の人口比が男性に比較して顕著に小さいことがわかる。これをパラオ短期大学のアドミッション・センターによれば、5年間で2000人程の若者が外国に留学している。パラオの人口構造と見合わせると、大学・大学院への進学、就職の機会と一致する年代について、女性20～24歳で2.8%、25～29歳で3.2%、30～34歳で3.9%と、同年代の男性（それぞれ3.6%、3.6%、4.7%）に比べて人口が少ない。このことはヒアリング等から伺えたパラオの女性は男性に比べて進学や就職を外国に求める特徴と一致する。パラオ国立奨学金委員会によれば、留学奨学金の採択者数について、2004-5（年度）の女性125人に対して男性50人、2005-6（年度）の女性139人に対して男性39人、2006-7（年度）の女性121人に対して男性56人、2007-8（年度）の女性130人に対して男性52人、2008-09（年度）の女性105人に対して男性69人と、女性の奨学金獲得数が男性を大きく上回っているおとがわかる。

親族女性の相互協力の文化は伝統的な慣習として継承されてきたが、この慣習の様式が近代制度と融合しながら発展してきたと考えられる。ソ連との冷戦を意識したアメリカのケネディ政権は太平洋地域の歓心を得る為、ミクロネシア地域の学生に支給される奨学金の予算を大幅に増加したが、その結果1970年代から80年代にミクロネシア地域からアメリカ留学生が増加した。この教育を受けた人材は、補助金で増産される信託統治政府の公務員ポストに就いた。学位さえあれば公務員ポストに就けることから、学生は公務員になるために有利な教育を専攻した。パラオでは教育を「収入を上げる魔法の杖」と呼ぶ者もいた（小林1994:61）。他方で、公務員が増えたことで女性の就労者も増えた。グアムやハワイで勤務経験のあるパラオ人男性の多くが、パラオの低賃金を理由にグアムやハワイに戻ったことで、パラオ国内の人材不足が深刻化した。「女性が財貨を運んでくる」問い言葉があるように、伝統的に女性が働く文化があったパラオであるが、パラオにおける近代セクターの人材不足は女性の公共部門への就職を後押しした。

(3) パラオ教育省によれば、パラオの教育制度はグローバル、太平洋島嶼、国家の3階層の枠組で捉えられる。人口2万人の小島嶼の住民はその置かれた自然環境、社会環境の中で生存のための協力活動を営んでいる。1994年に独立国となった国家は国家教育計画作成し、教育の制度化を進めている。また、太平洋島嶼の国々が連携して、教育の課題解決に取り組むことでリージョンの存在感を高めている。一方で、グローバル化する社会の中で、覇権国や国際機関の定める価値観や目標に恭順を示すことが、国際社会からの経済・技術協力支援を引き出すとの認識も高まった。覇権国であるアメリカとの間で締結した自由連合協定を活用し、連邦政府からアメリカ準州待遇の援助を教育分野で引き出している。また、国際機関との関係では「万人のための教育」ミレニアム開発目標、ユネスコの「学習の4本柱」をパラオの教育目標として受け入れ、その支援を国際社会から引き出している。パラオはグローバル課題の対応において開発途上国の「優等生」であり、様々な教育プログラムを導入している。

(4) パラオの国家教育計画やそれを補完する教育プログラムの多くは、太平洋地域で活動を展開している国際機関や大学の外国人研究者が主導している。パラオ伝統首長会議の伝統首長や識者によれば、パラオは伝統的に無文字社会であり、パラオ語による伝統的価値は例えば母から娘、叔父から甥のように口承伝承された。特に、親族にとって重要な知識は現在でも文字に書きとめることが禁じられている場合もあり、学校教育が知識の伝達の主流となる近代化の中で、伝統的な知識はそれを伝承する者たちにも重要な意味合いを持つようになった。そのため、例えば、伝統的タイトル（地位）を継承する立場にない者はアメリカから輸入される消費文化に容易に染められていく。伝統的慣習の意味合いが意識されなくなれば、親族集団で助け合うことで維持されてきた社会保障や安全が担保出来なくなると考えた伝統首長会議は、政府に伝統的価値観の伝承に関する教育の重要性を勧告し、例えば「教育発展のためのミレニアム教育計画」ではパラオで重視すべき価値観について盛り込んだが、無文字社会の中で伝承されてきたに過ぎない知識は、文字化社会で洗練られてきた知識の教育を受けている若者には必ずしも届かなかった。

(5) パラオの女性は幼少期から親族女性の小グループに入り、遊びを通じて関係性を深め、徐々に親族の伝統的行事などに参加する。聞き取りによれば、支援の内容や方法については特に定まっていない。地方出身者が首都で就職する、あるいは外国で就学や就職する場合は、グループの女性が残された家族や留守宅のケアをするケースもある。近年は、親族で少しずつ経済的な援助を出し合って、外国人の家事労働者を雇用するケースも一般的になり、かつてと比べて

相互協力の形も変化している。パラオの若者の中には、親族集団に対して金銭的な援助やイベントの時の労働提供をしないと回答する男女もいたが、その理由は経済的なものというよりは、伝統部門に深く関与したくないというものが複数あった。その回答者の特徴としては、伝統部門からやや距離を置き、学歴が大卒以上で、年収が一般的な公務員より高い民間企業の専門職が目立った。

(6)幸福度と向社会性ゲームについては、パラオ政府の調査委員会からの調査許可が1年近く遅れたことから、詳細については未だ分析中である。以上のことを断ったうえで概要を報告する。幸福度が高い傾向にあるのは伝統的タイトルを継承した(継承する見込みを含む)60歳以上で、彼らは年収も一般的公務員よりやや高い。また、親族集団への帰属意識は非常に高く、伝統的価値や自然を継承したい気持ちが非常に強いことがいえる。また、次世代を担う若者のためになることをしたいと言う意識も非常に高い。野菜、果物、魚などのお裾分けの頻度も高い。性別にかかわらず60歳以上の幸福度は高いが、女性は総じて高い傾向がある。一方、伝統的タイトルを継承した(継承する見込みを含む)20代30代の幸福度はやや低い傾向があった。しかし、親族集団への帰属意識、伝統的価値や自然環境を継承したい気持ち、若者を支援したい意識、お裾分けの意識は高い傾向があった。その他の項目や補完的な聞き取りの内容から判断すると、伝統的タイトルを継承する資格がある20代30代の伝統的行事や親族組織への労働あるいは金銭的な負担が大きいが関係していると考えられる。特に、30代の女性の幸福度がやや低い傾向から、この年代の女性は親族集団が行う儀礼の実施準備において中心的な役割が期待されていることが予想される。

伝統的タイトルを継承しておらず、今後も継承する見込みがない男女について、学歴が高校卒業以下、年収が低い場合でも親族集団への貢献や親族集団のメンバーとの安定した関係を持つ者の幸福度は平均よりやや高い傾向が見られた。一方で、学歴が大卒、大学院卒で収入は高いが、伝統的価値に関する知識や関心が無く、親族集団のイベントへの参加や寄付額が少ない場合は幸福度が低い傾向が見られた。また、補完的に行なった聞き取りによれば、このカテゴリの参加者には親族集団や伝統的価値とは関係なく「自分の力で奨学金を取り、自分の力で就職した」という認識(Perception)を持つ者が目立った。男女比としてはやや男性が多い傾向がある。このことから、日常生活において伝統的領域におけるコミュニケーションが多くを占めている小島嶼コミュニティにおいて、学歴エリートの中には職業、年収では比較的恵まれている状況にありながら、日常生活の中で社会的な意思決定、地域における責任等の点で地域コミュニティにおける承認欲求を満足できない状況の存在を思い浮かばせる。また、そのような状況にある者ほど、親族組織や伝統的価値、協力行動に対して否定的であり、そのことがさらに幸福度の向上にとってのネガティブ要因になっていると考えられる。

表. 伝統的タイトルと幸福度、年収、帰属、助け合い、次世代支援、イベント参加度

伝統的タイトル	人生満足度	年収	クランへの帰属感	お裾分け意識	伝統文化・自然環境の継承	若者支援の意識	年齢・性別集団の参加度
有り+見込み	高い	ふつう	非常に高い	高い	高い	高い	やや高い
若い	やや低い	ふつう	高い	高い	高い	高い	高い
年配	非常に高い	やや高い	非常に高い	高い	非常に高い	非常に高い	ふつう
無し、不明	低い	高い	低い	低い	ふつう	高い	低い
答えたくない	やや低い	高い	非常に低い	低い	低い	やや低い	低い

(7)パラオの国家教育計画やその実現をサポートするための国際協力は、児童、生徒、学生の学力向上とグローバル社会で生きていく力の育成という目標に向かって行われてきた。かつて、親族組織で高位の伝統的タイトルを継承する男性は推薦されて外国留学の機会を得られた。パラオの女性は冷戦構造の機会にアメリカの援助によって外国で高等教育を学び信託統治政府等公的機関で働く機会を持ち、女性グループのメンバーが助け合って学習支援や生活支援を提供し、同じ親族グループの女性が高収入の仕事に就くことでグループ全体の力の向上に貢献できた。今日の学歴エリートは、学校の成績で自ら奨学金を獲得し、自ら外国での就業機会を得るケースが増えている。しかし、それでもリタイア後に親族の慣習土地に戻り、商店を営む生活がこれまでのロールモデルであり、リタイア後に外国で生活することは未だハードルが高いと言える。

パラオの社会は、多くの場面で関係性によるソーシャルキャピタルが機能していて、親族集団の関係性の維持は社会保障であることがパラオ人の考え方の基底にあった。親族集団に対する経済的貢献の負担が多いと不満をこぼしながらも親族集団に帰属してきた文化が、実はパラオらしさを形成し、それが彼らの内発的発展の土台であったとも考えられる。パラオが導入したアメリカ教育制度には、母系社会の女性の役割や男性の役割を想定した支援や奨学金はない。そうした制度に、集団で何とか取組んできたことがパラオの工夫であったと思われる。しかし、パラオの教育を援助する外国人コンサルタントや研究者には母系社会の仕組や、その一見非効率なイベントや負担の大きい経済的貢献によって維持されてきたソーシャルキャピタルの崩壊を意識することは少ない。そして問題は、パラオの高学歴な者の中にもアメリカで身につけた知識はありながら、パラオに関する知識が無くその重要性を意識できない若者が増えている現

象である。今後の課題として、収集したデータを詳しく分析し、実証的に示すことで、パラオの高学歴の若者がパラオの文化について科学的に捉えようとする機会を提供できるよう引き続き研究を続ける。

#### 引用文献

- ① 廣瀬淳一「ミクロネシア島嶼世界と教育制度ーパラオの歴史(1885年ー1994年)から考える内発的発展についての試論ー」『高知大学学術研究報告』63、155ー170 2014
- ② 小林泉『アメリカ極秘文書と信託統治の終焉ーソロモン報告・ミクロネシアの独立』東信堂 1994年

#### 5. 主な発表論文等

##### 〔雑誌論文〕(計 4件)

- ① 廣瀬淳一「島嶼コミュニティの環境保全ー向社会的行動と個人主義的行動ー」『高知大学学術研究報告』66、126ー135、2017 (査読なし)
- ② 廣瀬淳一「パラオにおける親族集団の機能と役割ー利他的行動と幸福感ー」『高知大学学術研究報告』66、138ー151、2017 (査読なし)
- ③ 廣瀬淳一「小島嶼国家の内発的発展と人材育成(2)ーパラオにおけるアイデンティティと教育ー」『高知大学学術研究報告』65、155ー169 2016 (査読なし)
- ④ 廣瀬淳一「小島嶼国家の内発的発展と人材育成ーパラオ共和国の教育基本計画を参考にー」『高知大学学術研究報告』65、139ー153、2016 (査読なし)

##### 〔学会発表〕(計 1件)

廣瀬淳一「パラオの内発的発展と教育ー個人とコミュニティの幸福」(国際開発学会第28回全国大会(東洋大学白山キャンパス) 2017 口頭発表)

##### 〔図書〕(計 件)

##### 〔産業財産権〕

##### ○出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年：  
国内外の別：

##### ○取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

##### 〔その他〕

ホームページ等

コミュニティと個人の幸福に関する実証研究(四国地域連携による女性の学び支援のための研究協議会プロジェクト「四国5国立大学女性研究者研究交流発表会(ショットガンプレゼンテーション)』(グラントエクシブ鳴門・ザ・ロッジ) 2018 口頭発表)

#### 6. 研究組織

##### (1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。